令和3年度

授業改善推進プラン

　今年度も昨年度作成した「授業改善推進プラン」に基づき、学力向上に向けた取り組みを推進してまいりました。

　コロナウイルス感染防止対策でグループ活動や話し合い活動、音楽・家庭科・体育等の実技に依然として大きな制約がかかっていますが、今年度も４月に「大田区学習効果測定」を行いました。

　昨年度から新学習指導要領が実施されており、評価観点やその内容の変更から単純に前年度と結果を比較できませんが、その結果を受けて授業改善推進プランの改訂を行いました。今年度・来年度は教育研究推進校としてさらなる授業改善に取り組んでまいります。

令和3年8月

大田区立大森第四小学校

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校国語科）

１　国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・音読は、家庭学習でも継続して練習してきたため、意欲的に取り組む児童が増えた。
・入学当初より、話型指導を行い、子どもたちは丁寧な言葉を意識しながら発表している。
・漢字テストの復習を何度も行うことで、少しずつ書ける漢字が増えてきた。
・一昨年度までの校内研究で行ってきた読みの指導を継続しているため、物語文の読み方に慣れてきており、意欲的に人物の気持ちを考えようとしている。
・本を紹介したり自分の意見を書いたりする活動を多く取り入れたことで、書いたり話したりすることへの苦手意識が少しずつなくなってきている。
・クロームブックを活用することにより、ローマ字で表記されたものを正しく読んだり、書いたりすることができるようになった。

〇課題

・文字の形を整えることができないことがある。
・音読でつまずくことがあり、文を滞りなく読むことができない。
・漢字習得率が悪い。漢字が読めないために音読も出来ない事がある。
・言葉についての知識・理解が不十分なために、文章を読んでも、十分に理解できないことがあった。語彙力が乏しい。
・文章を読み取り、話の中心となる語や文を見付けることが難しい。
・区の学力効果測定の結果は、いずれも区平均を下回っている。領域別に見ると、４、５、６年全てにおいて「書くこと」の到達度が低い。「書くこと」の数値を区の平均と比べると、４年が約２０ポイント、５年が約３０ポイント、６年が約２０ポイント下回っている。
・文章を書くときに、誤字・脱字に気付かなかったり、拗音、撥音や助詞などを適切に使えなかったりする児童が多い。指定された長さで文章を書くことができない児童も多い。

２　国語科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・ひらがな、カタカナ、漢字、助詞、促音、長音等の書き表し方が身に付いていない。 ・主語と述語、修飾語、指示語などについての理解や、作文や文章を書く際の句読点の位置や鍵かっこの使い方の理解が不十分である。既習事項が定着していない。	・内容を読み取れず、文章を間違って読み取ったり、何を問われているのか分からないまま読み進め、問題を解いてしまったりすることが多い。 ・話し合いが苦手な児童が多い。話し手の目的や意図に応じて、話の内容を捉えることができず、話し手の意見に対する自分の考えを話すことができない。 ・内容の中心を明確にして自分の考えを書いたり、段落を意識して書いたりすることができていない。	・読書活動は楽しみにしている児童が多いが、ジャンルが広がらなかったり、絵だけ見て楽しんだりする児童が多い。 ・ひらがなばかりを使って文章を書く児童が多い。新しく学んだ漢字や言葉を積極的に使おうとする気持ちをもつことが難しい。
改善方針	・正しい助詞や言葉の使い方、正しい文章の書き方を身に付けさせる。 ・ひらがな、カタカナ、漢字、促音、長音などの復習を、タブレット等を活用して行い、定着させる。	・音読の工夫や動作化など様々な方法を取り入れ、文章の内容理解がより確実にできるようにする。 ・話型や聞く姿勢を提示し、話し合い活動をたくさん取り入れていく。 ・書く活動を増やし、書くことに慣れさせる。	・読書学習司書や図書館と連携し、読書の楽しさを感じさせる。 ・児童が書きたいと思う課題を設定し、文章を書くことを楽しませる。

改善策1年	・文字の学習では使い方の例を多く出し、文章中で正しく使えるようにする。 ・「書くって楽しいね」や、タブレットのドリルパークを活用したりし、ひらがなやカタカナなどの言葉を定着させる。	・授業の中で友達と交代で読むなど、音読方法を工夫して何度も行い、筆者の主張や登場人物の心情の読み取りに生かす。 ・最後まで聞いてから質問したり、自分の考えを述べたりする活動をどの単元でも取り入れる。 ・「せんせいあのね」の短作文を取り入れ、書くことに対する抵抗感をなくす。	・読書学習司書による読み聞かせや本の紹介を通して、読書に対する意識や態度を高めていく。 ・日記や本の紹介文など、児童が意欲的に書ける課題を設定する。
2年	・ノートや作文、日記などの指導をしっかりと行い、間違えやすい「は」と「わ」や見落としがちな促音を定着させる。 ・タブレットのドリルパークを繰り返し活用し、漢字を定着させる。	・授業の中で友達と交代で読むなど、音読方法を工夫して何度も行い、筆者の主張や登場人物の心情の読み取りに生かす。 ・自分の考えと友達の考えは似ているのか、違うのかを意識して話を聞くことを意識させる。 ・「はじめ」・「なか」・「おわり」の構成を意識して文章を書かせる。	・読書学習司書による読み聞かせや本の紹介を通して、読書に対する意識や態度を高めていく。 ・日記や本の紹介文など、児童が意欲的に書ける課題を設定する。
3年	・普段から主語や述語、接続語を意識して文章を書かせる。 ・タブレットのドリルパークを繰り返し活用し、漢字を定着させる。	・授業の始めに音読をする時間を設ける。 ・話型や聞く姿勢について提示し、話し合いを行う。 ・自分の書いた文章を読み返し、正しい表現に直したり、よりよい文章にしたりする時間を設定する。	・読書学習司書と連携し、学校図書館を積極的に利用しながら、読書に親しませる。 ・日記や本の紹介文など、児童が意欲的に書ける課題を設定する。
4年	・普段から主語や述語、接続語を意識して文章を書かせる。 ・タブレットのドリルパークを繰り返し活用し、漢字を定着させる。	・授業の始めに音読をする時間を設ける。 ・話型や聞く姿勢について提示し、話し合いを行う。 ・作文メモを用意し、文章の構成を考えさせてから文章を書かせる。	・読書学習司書と連携し、学校図書館を積極的に利用しながら、読書に親しませる。 ・日記や本の紹介文など、児童が意欲的に書ける課題を設定する。
5年	・普段から主語や述語、接続度、敬語、常体や敬体を意識させ、文章を書かせる。 ・タブレットのドリルパークを繰り返し活用し、漢字を定着させる。	・登場人物の行動、会話、情景に注目して読ませ、暗示的に表現されている心情に気付かせる。 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞き自分の考えを伝えたりする活動を日常的に取り入れる。 ・要約したり、指定された文章で書いたりする活動を、自主学習の宿題や授業で取り入れる。	・読書学習司書と連携し、学校図書館を積極的に利用しながら、読書に親しませる。 ・日記や意見文を書く機会を設けたり、本の紹介を行ったりする。
6年	・普段から主語や述語、接続度、敬語、常体や敬体を意識させ、文章を書かせる。 ・タブレットのドリルパークを繰り返し活用し、漢字を定着させる。	・登場人物の行動、会話、情景に注目して読ませ、暗示的に表現されている心情に気付かせる。 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞き自分の考えを伝えたりする活動を日常的に取り入れる。 ・要約したり、指定された文章で書いたりする活動を、自主学習の宿題や授業で取り入れる。	・読書学習司書と連携し、学校図書館を積極的に利用しながら、読書に親しませる。 ・日記や意見文を書く機会を設けたり、本の紹介を行ったりする。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校社会科）

１　社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・感染防止のため、見学や体験学習に制限があったため、代わりにタブレットなどでの調べ学習を行うことで意欲・関心が増し、学習内容の理解をすすめることができた。また、見学に行けない分、教員が資料の工夫をしたことで、自分の生活体験を想起させることができた。
・学習のめあてをもたせたり、視聴覚教材を提示したりすることで意欲的に学習に取り組ませることができた。
・さまざまな資料を提示し、読み取ったことで、資料の読み取り方がわかる児童が増えた。

〇課題

・導入時に意欲的に学習を進められても、その意欲を継続させることが難しいことがある。
・調べ学習において、資料を読み取り、そこから分かったことや自分の考えを適切に表現することが苦手な児童が多い。
・大田区学習効果測定では、全般的に区の平均正答率より低い。
・４年生「店ではたらく人」では、知識の観点では、目標値を上回っているが、思考判断の点では、１２ポイント程度低い。
・５年生「地図の見方」では、区目標値よりも１０ポイント弱低い。
・６年生「世界の中の日本」では、知識・技能および思考・判断・表現はそれぞれ区目標値よりも２０ポイント程度低い。
・新型コロナウイルス感染防止のため、地域巡りや社会科見学に制限がある。

２　社会科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・地図記号や方位、都道府県などの理解が不十分である。既習事項の定着に課題がある。 ・さまざまな資料を読み取ったり、活用したりする力が不十分である。	・資料を読み取りめあてについて考えたり、他の資料と比較したりして特徴を捉えたりすることが難しい。	・社会的事象について積極的に学習したり、資料を読み取ったりすることへの関心をさらに高めたい。
改善方針	・既習事項を定期的に復習するなど、定着させる工夫をする。 ・学習の中に、写真やグラフ、表、先人の話など、必要な資料を読み取る活動を取り入れる。ＩＣＴも活用していく。	・資料を読み取ったことから自分の考えをもたせる。資料を比較する力を高める。自分の考えを話し合う活動を取り入れる。	・児童の関心・意欲を高めるために、単元導入時に提示する資料を工夫したり、単元を通した学習問題を立てたりする。資料の工夫として、ＩＣＴも積極的に取り入れていく。
改善策３年	・地図帳を使う機会を増やす。 ・フラッシュカードやミニテスト等を活用して知識の定着を図る。 ・グラフや表の読み取り方を丁寧に指導する。 ・ＩＣＴのアプリを活用する。	・資料から読み取ったことを基に、学習問題について自分の考えをもたせる。 ・自分の考えを伝え合い、学習問題について話し合う活動を取り入れる。	・教科書の資料だけではなく、地域教材など教員が教材を工夫して提示する。 ・単元を通して、自分の深まりを確かめられるように振り返りの記録をする。

４年	・フラッシュカードやミニテスト、クロムブック等を活用して知識の定着を図る。 ・地域のためにはたらく人びとについて学ぶことで、自分たちの生活とのつながりを考えさせる。	・地域で働く人々について、その必要性や地域での役割を自らの生活と関連させて考えさせる。 ・地域の発展に寄与した人物や年表などの資料の活用をして、変化したことの理由や背景を常に考えさせる。	・水道やごみなどについて、自分が地域社会の一員であることを自覚させ、よりよい生活のためにどうしたらよいかという、問題意識をもたせる。
５年	・授業の始めや終わりに、フラッシュカードやミニテスト等を活用して知識の定着を図る。 ・資料やグラフの読み取り方を細かく指導する。 ・従来の資料集や映像資料に加え、動画や１次資料などに当たることができるＩＣＴも活用しながら、自ら調べる学習に取り組ませることで、知識を定着させる。	・資料を正確に読み取り、複数の資料を関連させ、なぜそうなっているのか、資料を根拠に自分の考えをもたせるようにする。 ・資料から読み取って考えたことをペアやグループ等で交流することで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。	・児童が関心をもてる資料を提示し、そこから単元を通した学習問題を考えさせる。 日常での体験と結び付けられるような資料を提示する。
６年	・資料やグラフの読み取り方、年表の見方を細かく指導する。 ・提示した資料や自分で ICT を活用して調べた資料を読み取ることで、日本と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における日本の役割について理解させる。 ・歴史上の人物について、資料集や映像資料などを使って自ら調べ、定期的に復習をすることで知識の定着を図る。 ・時代の流れを把握するために、年表を作成する。	・国際上日本はどのような役割を担い、どうあるべきなのか、様々な資料を読み取った上で自分の考えをもたせるようにする。 ・めあてに沿って、自分の考えを表現できるような話し合いの場面を設定する。 ・根拠をもって自分の考えを表現できるような話し合いの仕方を身に付けさせる。	・児童にとって身近な教材や、意外性のある教材を提示して、児童の関心や意欲を高める。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校算数科）

１　算数科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・デジタル教科書など、視聴覚教材を使用したり、具体物を操作したりする活動を積極的に取り入れたことにより、苦手意識を解消してきた児童が増えた。

・基本的な計算を繰り返し練習することで、正しく計算することができる児童が増えてきている。

〇課題

・１０以上の計算、かけ算九九など基礎となる計算が定着していない児童がおり、その後の計算で正しい解答が導き出せない児童がいる。既習事項が身についていないことが、新しい学習の妨げになっている。

・文章問題を読み取り、正確に立式、正しく解答を求めるのが難しい児童がいる。

・大田区効果測定の結果では、全領域において目標値を下回っている。特に「数と計算」領域での下回り方が著しいので、前学年までの既習事項を復習する時間を設け、確実に定着させる必要がある。

２　算数科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・量感がイメージできない。 ・基本計算の計算精度が低い。	・文章題から演算決定をし、正しく立式することができない。	・児童によって授業への参加意識に差がある。
改善方針	・反復学習および日常の生活体験に結びつけた学習をさせ、量感を養ったり、計算練習を繰り返し行ったりすることで、基礎的な知識や技能の定着を図る。 ・具体物や具体例を用いて説明したり考えさせたりする。	・具体物を使いながら数量の関係を表やグラフを用いて表し、式を数直線や図などと関連付けて考えさせ、自分の考えを説明できるようにする。 ・話し合う活動を取り入れ、問題解決型の学習を積極的に取り入れる。	・授業の導入を工夫し、学習への意欲を育てるように、楽しみながら数や図形の概念を身に付けさせるなど授業スタイルを見直す。 ・タブレット端末を使って、自分に合った学習を繰り返し行って行く。
改善策 1年	・１０になる組み合わせ及び計算練習の反復練習に取り組む。 ・ブロック操作など、具体物による計算練習に取り組む。	・問題をブロック操作などの具体物によって状況を確かめて把握する活動を通して、加減の判断に取り組む。 ・和差算の混在した文章問題をどうやって解くか、自分の考えを発表したり、ペアやグループ活動で話し合ったりする場面を多くする。	・授業開始時に前時の既習を確認し、学習のスタートラインをそろえる。 ・タブレット端末を必要に応じて使い、スモールステップで進め、挙手の機会を保障する。
2年	・計算が用いられる場面を具体的にイメージさせ、繰り返し取り組ませる。 ・ブロック操作など具体物を使って１００がいくつ分・１０がいくつ分という表現方法やかけ算のしくみなどへの理解を深めさせる。	・ブロック操作や図を使い、ペアやグループで話し合うことで問題の内容が具体的にイメージさせる。 ・問題をどう解くか、自分の考えを発表したり、ペアやグループ活動で話し合ったりする場面を多くする。	・授業開始時に前時の既習を確認し、学習のスタートラインをそろえる。 ・主体的に楽しみながら個に応じた課題を解決できるように、タブレット端末のの使用法や使用場面を工夫する。

3年	・計算スキルやプリントを活用し計算、文章問題等に取り組ませるなど、反復学習をさせて基本的学習内容を定着させる。 ・図形の名称や性質を、模型や動画などを活用して定着させる。	・学習の内容をノートに図表を用いて自分の言葉でまとめたり、タブレットに記録させたりする。 ・問題をどう解くか、自分の考え方を式や図表で表し、グループや友達同士で発表し合ったり話し合ったりする場を多く設ける。	・授業開始時や授業中に必要に応じて基本的な計算方法や既習事項を確認し、学習意欲の持続を図る。 ・タブレット端末を必要に応じて使い、個に応じた課題をスモールステップで進める。
4年	・計算スキルやプリントを活用し計算、文章問題等に取り組ませるなど、反復学習をさせて基本的学習内容を定着させる。 ・図形の名称や性質、求積方法等を、模型や動画などを活用して定着させる。	・学習の内容をノートに図表を用いて自分の言葉でまとめたり、タブレットに記録させたりする。 ・問題をどう解くか、自分の考え方を式や図表で表し、グループや友達同士で発表し合ったり話し合ったりする場を多く設ける。	・授業開始時や授業中に必要に応じて基本的な計算方法や既習事項を確認し、学習意欲の持続を図る。 ・タブレット端末を必要に応じて使い、個に応じた課題をスモールステップで進める。
5年	・基礎計算のミニテストを繰り返し行い、計算する力を高める。 ・学習内容や問題場面を丁寧に説明し、公式などを教室に常掲して、問題を繰り返し解かせて知識の定着を図る。	・自分の考えを、式を使ったり、図表やグラフなどを使ったりしてまとめ、ノートやタブレットを使用して記録させる。 ・自分の考え方や問題の解き方をグループや友達に説明したり、話し合ったりする場を多く設定する。	・授業開始時や授業中に、必要に応じて基本的な計算方法や既習事項を確認したり、身近な生活体験と結びつけて提示したりすることで、実感を持って問題を捉えさせ、学習意欲の持続を図る。 ・タブレット端末を必要に応じて使い、個に応じた課題をスモールステップで進める。
6年	・基礎計算のミニテストを繰り返し行い、計算する力を高める。 ・学習内容や問題場面を丁寧に説明し、公式などを教室に常掲して、問題を繰り返し解かせて知識の定着を図る。	・自分の考えを、式を使ったり、図表やグラフなどを使ったりしてまとめ、ノートやタブレットを使用して記録させる。 ・自分の考え方や問題の解き方をグループや友達に説明したり、話し合ったりする場を多く設定する。	・授業開始時や授業中に、必要に応じて基本的な計算方法や既習事項を確認したり、身近な生活体験と結びつけて提示したりすることで、実感を持って問題を捉えさせ、学習意欲の持続を図る。 ・タブレット端末を必要に応じて使い、個に応じた課題をスモールステップで進める。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校　理科）

１　理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

◯成果

・校庭や学年園がないなどの制約がある中、ＩＣＴやタブレットを活用して身近な動植物に関心をもって観察し、道具の使い方や基本的な観察方法など一定の知識・技能を身に付けることができた。
・昨年度と比較すると、全学年で全体的に目標値を下回ったものの、４年生については基礎的な知識・技能は身に付き、前年度の正答率とほぼ同じになった。
・問題→予想→実験→結果→考察→結論という学習過程を繰り返すことで、見通しをもって実験・観察に取り組める児童が増えてきた。
・考察や分かったことなどの書き方を例示することで、徐々に自分の考えを書けるようになっている。

◯課題

・知識・技能が定着しておらず、そのため、既習事項を生かした実験の手順や条件、目的などが理解できず、そのため、実験結果からその意味を読み取ることが難しい。
・科学的事象について、基礎的な知識・技能を基に判断したり、理由を推測して説明したりする力が弱い。
・大田区学習効果測定では、理科全体として区目標値に対して４年は約５ポイント、５年は約１０ポイント、６年は約７ポイント下回った。観点別では、思考・判断・表現を問う問題について目標値との差が大きい。

２　理科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・既習事項が定着していない。 ・実験の手順や条件、目的などが理解できていない。	・課題について、実験結果を基にそこから言えることを説明、表現することが難しい。	・課題意識が薄いため、実験の目的が曖昧になり、結果から答えを見出したり、知識を生かそうとしたりする意欲が低い。
改善方針	・タブレットや視覚教材を用いてふり返りを行ってから単元に入る。 ・課題解決のための実験を子供自身に考えさせ、実験の意味、結果への理解を深めさせることで、知識・技能の定着を図る。	・課題提示の段階から、理由をそえて予想することを徹底する。 その上で、結果から得られた考えを表現することを繰り返す。	・映像を見せたり身近な生活と関連付けたりして課題に対する関心を高める。 ・単元の終末では学んだことを生かせる主体的な活動を設定する。
改善策３年	・タブレットや視覚教材を用いてふり返りを行ってから単元に入る。 ・一人一人が実験を行うことができるよう活動場面を多く設定する。	・実験や観察を通して、差異点や共通点を見付け、問題について自分の考えをもたせる。	・身近な生活から課題意識をもたせることで、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・単元の終末では学んだことを生かした遊びを設定する。
４年	・タブレットや視覚教材を用いてふり返りを行ってから単元に入る。 ・課題解決のための実験方法を検討させ、実験の意味、結果に対する思考を深められるよう、ノートや ICT 機器での記録の仕方を工夫する。	・課題提示の段階から、既習事項や生活経験を基に理由をそえて予想をさせることを習慣づける。実験や観察を重ねることで、考えの根拠を増やす。	・単元の導入で身近な生活と関連付けて課題を捉えさせる。 ・単元の終末では学んだことを生かした活動を設定し、関心を深める。
５年	・既習事項を元に、タブレットなどで学習内容がつながるように、視覚教材を用いてふり返りを行ってから単元に入る。 ・実験を子供自身に考えさせ、実験の意味理解や結果に対する思考を深めさせるために、ノートや ICT 機器での記録の仕方を工夫する。	・課題→予想→予想理由→実験方 法→結果→考察の流れを定着させる。	・ビデオを見せたり、メダカの卵を顕微鏡で見たりして、意欲・関心を高める。 ・単元の終末では学んだことを生かした活動を設定し、生活生かす意欲を高める。
６年	・これまでの既習事項がつながるように、タブレットや視覚教材を用いて前単元のふり返りを行ってから単元に入る。 ・実験を子供自身に考えさせ、実験の意味理解や思考を深め、結果を基に考察できるようにするために、ノートや ICT 機器での記録の仕方を工夫する。	・課題→予想→予想理由→実験方法→結果→考察の流れを定着させる。また、考察を書く際に「何の実験か」「何を調べたのか」を書かせる。	・ビデオを見せたり、具体物を観察させたりして、意欲・関心を高める。 ・単元の終末では学んだことを生かした活動を設定し、生活生かす意欲を高める。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校生活科）

１　生活科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇課題

＜１年＞

・感じたこと、気付いたことを言葉で表現することが難しい児童がいる。

・自然が少ない環境の中で、地域の自然を活用する機会を増やす必要がある。

＜２年＞

・地域の施設について学んだ後、施設を活用することがなかなかできなかった。

・寒い季節にも、生き物がそれぞれの過ごし方で生きていることを感じることが難しかった。

〇成果

＜１年＞

・一人一人に朝顔の鉢を持たせて関わらせることで、植物の生長の変化を楽しみ、観察の視点を見つけることができた。

・学校探検を行い、学校と地域に関心をもつことができた。

＜２年＞

・年間を通して植物を育てることで、生き物への愛着をもたせることができた。

２　生活科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・深い気付きにつながらない。	・あさがおやミニトマトを観察してどのように表現したらよいか分からない児童がいる。	・学校に自然が少ない。 ・季節を感じることが難しい。
改善方針	・学校だけではなく、地域の人材や自然を活用することにより具体的な理解につなげる。 ・友達との交流を取り入れていく。	・見る視点をはっきりさせる。 ・表現の仕方を共有していく。	・地域の公園や育てている植物を活用する。
改善策１年	・地域や学校の職員との交流を多くもつことで、より深く具体的な気付きにつながるようにする。 ・友達と意見を交流することで気付きを広げたり深めたりできるようにする。	・観察する際、どこを見たらよいか、どんなところを見たらよいか具体的に示す。 ・どのように表現したらよいか、絵や言葉の書き方を示したり、友達のよい表現を見て学んだりする機会を設ける。	・毎日継続して植物の世話を行うことで、成長の変化に関心をもたせる。
２年	・野菜が変化し成長していることや、日常生活の中で発見したことを紹介・発表する機会を設ける. ・友達と意見を交流することで気付きを広げたり深めたりできるようにする。	・植物に心を寄せ、よりよい成長を願い、世話の仕方を考えたり、本を読んで調べたりする。 ・町探検で気付いたことを自分なりの方法で表現したりして、友達との関わりの中で学ぶ機会をさらに増やす。	・生命のあるものとして継続的に世話をしようとしたり、私たちの住む町の身近な人々や様々な場所に親しみをもって関わったりして、自分の経験を伝え合う機会をもたせる。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校音楽科）

１　音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・技能については、簡単な聴音や階名唱や、呼吸やタンギングのための具体的な体の使い方、楽器の奏法などを毎時間繰り返すことで積み重ねている。リコーダーは楽曲を多く用意し、自分に合った曲を選んでチャレンジできるようにし、技能の向上がみられている。また、臨時休校期間中に家庭でリコーダーの練習ができるように３２曲の練習動画を作成し、YouTube に公開することで、意欲の継続をすることができた。また、リコーダーチャレンジを通して読譜の力が付いてきたことを実感できている児童が増えてきた。

・楽曲にふさわしい音楽表現を考えたり、工夫したりするために楽曲の気分や雰囲気を感じさせるように音楽の要素や用語を多く用いることで、表現の手段を考えたり選んだりできる児童が増えた。また、パートの役割を考えて楽器を選んだり、リズムの組合せを考えて音楽をつくったりすることもできるようになってきている。

・鑑賞については楽曲を特徴付ける音楽の要素や旋律の特徴を感じて表現するために言語に限らず、身体表現や絵、図なども用いてよいとすることで、語彙の少ない児童が感受の表現をできるようにした。

・音楽表現の意欲を高めるために、低学年では身体表現やリズム遊びを多く採り入れ、また、鍵盤ハーモニカは繰り返し練習をすることで基本となる奏法を身に付けることで楽しんで表現する児童が増えた。中・高学年では歌唱や楽器演奏の基礎的な技法の指導を積み重ねたことで、積極的に音楽表現をしようとする児童が増えた。

〇課題

・技能については　歌唱は、低学年の元気に歌うから、高学年の発声・発音・音程といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなる。器楽では繰り返し個人指導を行っているが、鍵盤ハーモニカ・リコーダーともにタンギングと指遣いの習得に課題がある児童がなかなか減少せず、学年が上がるにつれて個人差が開いていく。臨時休校期間中、楽器に全く触れない児童と練習に取り組んだ児童の技能差が大きく開いている。また、音符や記号の知識が定着していないため、楽譜から求められる表現を読み取ることが難しい児童が学年が上がるにつれて増えていく。さらに、読譜、拍感、技能、楽器の特徴といった基本的な知識が身に付いていない児童は、音楽づくりの活動に取り組むことが難しくなっている。

・どのような表現をするか考えたり工夫したりするためには、技能が身に付いていなければその根拠がもてない。そのため、自分がどんな表現をしているかがわからない、語彙や経験値が少ない、といったことから、どんな表現をしたいか思いや意図をもてない児童が学年が上がるにつれて増えていく傾向がある。

・鑑賞については、曲の感じを身体表現であらわすことはできるが、感じたことや聴き取った旋律の特徴や音楽の要素を言葉でうまく表現したり説明したりすることについて個人差が大きい。

・意欲は技能の裏打ちがないと音楽表現への取り組みが難しくなり、学習のルールが守れなくなっていく。

２　音楽科における課題・改善策

音楽科で特筆すべき事項として、新型コロナウイルス感染防止対策により、歌唱・リコーダー等の器楽の指導が制限される状況下で、譜面台に飛沫防止シールドを取り付けるなど可能な対策を行って授業を進めている。しかし、グループ活動ができないためにお互いの音を聴き合ってアドバイスをする活動ができない、また、歌唱やリコーダーの演奏そのものが拒絶される世論や、マスク・シールド等の物理的・心理的な影響が大きく、音楽表現への意欲、技能について特に顕著にマイナスとなっており、これに対しての実効性のある改善の方策が立てられないのが実情である。

全学年において３観点共通改善策として、全児童に貸与された chromebook を活用し、デジタル教科書を授業で活用し、読譜、運指のビジュアル化を行う。また、大容量ストレージが使用可能となったので、歌唱や器楽のパート別の音源を作成、配信することで、読譜と実際の音を結びつけ、音を聴きながら個人練習ができるようにする。これによって授業以外の場でも音楽活動に取り組めるようになり、意欲の向上と持続を図る。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・歌唱は、低学年の元気に楽しく歌うから、高学年の発声・発音・音程といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなってくる。 ・器楽では鍵盤ハーモニカ・リコーダーともにタンギングと指遣いの習得に課題がある児童がなかなか減少しない。いずれも個人差が大きく、つまずくと追いつくのが難しい。また、打楽器等の奏法や拍感を正しくもてない児童がいる。 ・音楽の要素や曲想を表す用語や読譜が定着せず、鑑賞の視点をもてない。	・学年が上がるにつれて、読譜や技能、拍感やリズム感の習得の困難さや語彙の少なさから、自分なりの表現方法を工夫することが難しい児童が増えてくる。 ・音楽を聴いて曲想を感じることはできるが、音楽の要素や曲想を言葉で表現することが難しい。	・低学年では楽しもうとする気持ちが高ぶると乱暴な歌い方になったり楽器の奏法が雑になったりしがちである。また、高学年になるほど、多人数での合奏や合唱では音楽表現をするが、一人では音楽表現を恥ずかしがる傾向がある児童が増えてくる。

改善方針	・歌唱・器楽ともに基本的な奏法や読譜を繰り返し練習する。また、ICTを活用し、楽譜や音源をわかりやすく提示したり、個別指導を行ったりすることで技能の向上を図るようにする。 ・音楽の要素や曲想を表す言葉や用語を覚えさせ、読譜の力をつける。	・楽曲にふさわしい音楽表現をするためにどうしたいか、どのような奏法を使うかなど、考えたことを伝えられるように身体表現の方法や語彙を増やす。 ・音楽を聴いて感じたことや気付いたことを身体表現や音楽の要素をもとにした言葉で表現できるようにする。	・音感や歌唱・楽器演奏など、音楽表現をするための意欲と自信の根拠となる技能を低学年から段階的に高める。
改善策1年	・声も楽器であることを根気強く指導し、歌唱や鍵盤ハーモニカの演奏は、拍を考えて反復練習を積み重ねるようにする。 ・打楽器の奏法は、範奏を見せたり、リズムや拍を打つ様子を互いに見せ合ったりする。 ・階名唱など、簡単な楽譜を読むことを繰り返し練習させる。	・どんな表現をしたいか考え、身体全身で表現する、のびのびと自分の考えを発表するなど、交流する場を設定する。 ・鑑賞の視点を事前に確認してから、音楽を聴いて感じたことを、身体表現をしたり、低学年の言葉と音楽の言葉で結びつけて表したりする活動をする。	・歌や演奏を聴き合ったり認め合ったりする機会を多く設け、進んで学習に参加できたり、できるようになった達成感を認めたりすることで、楽しんで学習に取り組むことができるようにする。
2年	・音程を意識して階名唱をしたり、鍵盤ハーモニカの演奏を繰り返し指導したりして、技能の習熟を図る。 ・打楽器の基本的な奏法の習得を通して、拍感を身に付けさせる。 ・階名唱を繰り返し行い、簡単な楽譜を読むことと合わせて、音楽の要素や曲想を表す単語を意図的に提示する。	・どんな表現をしたいか考え、身体表現をしたり、のびのびと自分の考えたことを表現したり、友達のまねをしたりする機会を与える。 ・鑑賞の視点を事前に確認してから、音楽を聴いて感じたことを、身体表現をしたり、低学年の言葉と音楽の言葉で結びつけて表したりする活動をする。	・友達の歌や演奏を自分のものと聴き合い、認め合う機会を多く設け、音楽表現の楽しさを感じさせることで意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
3年	・歌唱は自然で伸びやかな声で歌うための体の使い方を身に付けさせる。リコーダーはタンギングや基本的な指遣いを繰り返し指導し、必要に応じて個別指導も行う。各楽器の音の特徴を理解し、奏法を身に付けさせる。 ・階名唱や視唱を行い、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。	・範唱や範奏や楽譜から楽曲の特徴を感じ取り、自分でどう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて考えられるような選曲や楽譜の提示をする。 ・音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるために、ワークシートや教室掲示の工夫をする。	・階名唱や視唱、リコーダーの演奏や読譜を繰り返し練習させ、特にリコーダーは個別指導をすることでやればできるという意欲と自信がもてるようにする。
4年	・歌唱は発声や発音に気を付けて伸びやかな声で歌えるように体の使い方を指導する。リコーダーは基本的な奏法やサミングが使われる音域の運指の指導を繰り返し行う。合奏を通して様々な楽器の奏法を身に付けさせ、音楽の種類ごとのリズムや拍の取り方の違いを感じさせる。 ・階名唱や視唱を行い、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。	・楽曲の特徴を感じ取り、どう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて、友達と意見を交換する活動を多く採り入れる。 ・音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。	・互いに練習の成果を聴き合ったり、教え合ったりすることで、友達と積極的に関わる時間を設け、音楽表現をする事への意欲と自信をもたせるようにする。
5年	・発声や発音の基礎練習を行い、体の使い方を体得させるようにする。楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。 ・階名唱や読譜を通して音楽の要素や楽曲の特徴や曲想を表す言葉を繰り返し指導する。	・範唱や範奏や読譜から音楽の特徴を音楽の要素と関連させて感じ取り、自分の表現に生かすために楽譜への書き込みやグループでの意見交換を多く採り入れる。 ・音楽を、曲想の変化や特徴を音楽の要素と関連させて聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。	・個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、できることを増やすことで音楽表現への意欲や関心を高める。
6年	・発声や発音の基礎練習を行い、頭声発声のための体の使い方を体得させるようにする。楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。 ・階名唱や読譜を通して音楽の要素や楽曲の特徴や曲想を表す言葉を繰り返し指導する。	・範唱や範奏や読譜から音楽の特徴や物語性を音楽の要素と関連させて感受し、自分でどう表現するか考えるために、楽譜への書き込みやグループでの意見交換や発表を多く採り入れる。 ・曲想の変化や特徴を音楽の要素や学習したり、生活の中で聴いたりした音楽と関連させながら聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。	・個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、楽曲を仕上げることで達成感をもたせ、音楽表現への意欲や関心を高める。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校図画工作科）

1　図画工作科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・用具や材料の適切な扱い方は、大型スクリーンに拡大して見せるなどして、分かりやすく師範と指導をすることで、児童の理解を深めることができた。

・板書では、単元の《テーマ》と《今日の学習》の内容を明確にし、各児童が、授業で何をするのかはっきり分かるようにした。

〇課題

・造形的な見方から自分らしい発想で用具や材料を使い分け、平面作品で表したり、立体作品で表したりすることが苦手であると思っている児童がいる。

・鑑賞した作品からそのよさを感じ取り、自分の表現活動の参考にしようとする意識の少ない児童がいる。

2　図画工作科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・対象や事象を捉える造形的な視点が、学年相応に育っていない児童がいる。 ・材料や用具の使い方について、経験から意欲的に取り組もうとするが、定着に個人差があり、創造的な表現までは結びつかない児童がいる。	・対象の形や色の感じなどから造形的なイメージをもち、そのよさや美しさ、表したいことや表し方などを考え、発想や構想を練ることが難しい児童がいる。 ・鑑賞した作品などから、そのよさを感じ取り、自分の見方を広げたり深めたりすることが難しい児童がいる。	・つくりだすことに楽しさを感じ、進んで意欲的に表現したり鑑賞したりする活動が、なかなかできない児童がいる。
改善方針	・基礎・基本の表現方法を確認しながら、表現方法の幅を学年相応に広げていくということを繰り返し、表現方法の定着を図る。 ・その上で、用具や材料の使い方を工夫し、自分らしく創造的に表現できるようにする。	・いろいろな材料や素材を触ったり試したりすることや、発想したことや構想をイメージにまとめたりして、自分のめあてがもてるようにする。 ・表現の実例のような鑑賞も行い、自分の見方や表し方を広げたり、深めたりできるようにする。	・材料や素材の見せ方やそれらを与えるタイミングなどを考慮し、児童が興味・関心をもち、活動や作品のイメージがしやすいように師範の仕方などを工夫する。 ・鑑賞の時間を、授業の中に適宜設定し、自己の表現活動の参考にし、表現意欲が高まるように指導する。
改善策1年	・材料を使ってつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付くようにする。 ・はさみ、のり、絵の具等の道具は、使い方を確認しながら、繰り返し使っていくことで定着させる。	・すすんで表したいことを見付けられるよう、材料を選択できるようにする。 ・友達と作品を見合うことで、自分の見方や表し方を広げるようにする。	・表したいことについて話したり説明したりする交流の時間を取り、自分のイメージを主体的に表現させる。 ・友達と作品を見合うことで、よいところを自分の作品に生かせる時間を取り入れていく。
2年	・材料を使ってつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付くようにする。 ・ボンドやのりを使った素材の接着や、絵の具に混ぜる水の調節を繰り返し確認し、使い方を定着させる。	・材料と関わる時間を十分に設けて、児童が自分のイメージをもちながら思い付いた表現を試すことができる場を設定する。 ・鑑賞の時間を通して、自他の作品に関心をもち、お互いの感じ方や考えのよさを認め合い、自分の見方や感じ方に活用するようにする。	・児童にとって身近なテーマや材料を取り上げ、主体的に表現できるようにする。 ・それぞれの表現のよさを全体で共有することで、つくりだす喜びを味わいながら取り組むことができるようにする。

3年	・絵の具や用具の基本的な扱い方を定着させる。 ・描画用具（カラーペン・パステル・色鉛筆等）も同時に使用し、表現の幅が広がるようにする。 ・カッターナイフなどはさみ以外の用具の取り扱い方も定着させ、基本的な切る作業がスムーズにできるようにする。	・いろいろな材料や素材を、触ったり試したりすることから、作品のイメージへと結び付けられるようにする。 ・アイデア（イメージ）スケッチなども必要に応じて行い、構想をまとめやすくする。 ・表現の実例のような鑑賞も取り入れ、見方や感じ方を広げさせるようにする。	・材料や素材の提示の仕方やそれらを与えるタイミングなどを考慮し、児童が興味・関心をもち活動できるようにする。 ・授業の中に友達の作品（経過中含む）を鑑賞する活動を通して、そのよさや工夫しているところを見つけ、自分の表現活動の参考にし、表現意欲の向上に役立つようにする。
4年	・絵の具や用具の基本的な扱い方を充実させ、色彩感覚や造形表現の基礎を育てる。 ・描画用具（カラーペン・パステル・色鉛筆等）を絵の具と組み合わせ効果的に表現できるようにする。 ・はさみ・カッターナイフ・彫刻刀・接着剤などの用具や、段ボール紙・スチロール材・軽量粘土などの多種の材料の扱いに慣れさせ、表現の幅を広げることに取り組む。	・いろいろな材料や素材から発想したことや構想を、必要に応じてアイデア（イメージ）スケッチにまとめて、制作の目安にするように指導する。 ・大型スクリーンを使っての実例指導や板書を活用して、視覚的に分かりやすい授業を展開し、発想や構想がまとまりやすいようにする。	・材料や素材の提示の仕方やそれらを与えるタイミングなどを考慮し、児童が興味・関心をもち活動できるようにする。 ・授業の中に友達の作品（経過中含む）を鑑賞する活動を設け、そのよさや工夫しているところを見つけ、自分の表現活動の参考にし、表現意欲の向上に役立つようにする。
5年	・網とブラシを使うスパッタリングの方法での絵の具の使い方や、電気糸鋸機など大型の機器や工具類などの正しい扱い方を指導し、基本的な取り扱いができるようにする。 ・その上で用具や材料の使い方を工夫し、自分らしい創造的な表現ができるようにする。	・木やアルミ材・スチロールなど、加工の難易度の高い材料や新素材などを表現の中に取り入れ、発想したり構想したりしてイメージを広げ、作品を表現できるようにする。 ・大型スクリーンを使って、実例指導を見せ、板書を活用して視覚的に分かりやすい授業を展開し、自分の表現の見通しがもてるようにする。	・表現のテーマや面白さを明確にするとともに、新しい材料や素材を与えるタイミングや、児童がイメージしやすいように師範の仕方などを工夫する。 ・友達の作品（経過中含む）や参考作品などを鑑賞する時間を設け、そのよさや工夫しているところから興味・関心を喚起し、表現意欲が高まり持続する指導に取り組む。
6年	・スパッタリングの方法やスポンジを使って色を付けていくなど、絵筆を使うだけではない深い色彩感覚での絵の具の使い方や、電気糸鋸機など大型の機器や工具類などを組み合わせて使うなどの扱い方を指導し、応用的な取り扱いもできるようにする。 ・その上で用具や材料の使い方を工夫し、自分らしい創造的な表現ができるようにする。	・木やアルミ材・スチロールなど、加工の難易度の高い材料や新素材などを表現の中に取り入れ、発想したり構想したりしてイメージを広げ、作品を表現できるようにする。 ・大型スクリーンを使って、実例指導などを見せ、板書を活用して視覚的に分かりやすい授業を展開し、計画的に表現できるようにする。	・表現のテーマや面白さを明確にするとともに、新しい材料や素材を与えるタイミングや、児童がイメージしやすいように師範の仕方などを工夫する。 ・友達の作品（経過中含む）や参考作品などを鑑賞する時間を設け、そのよさや工夫しているところから興味・関心を喚起し、表現意欲が高まり持続する指導に取り組む。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校家庭科）

１　家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・個別指導を通して、個人差はあるが基礎的・基本的な技能が身に付いた児童は多く、効果的であった。
・学習を振り返り、繰り返し行うことが、技能の定着に効果的であった。

〇課題

・調理実習が出来なかったため、動画やICTを活用して授業を行ったが、やはり知識・技術面で十分とは言えなかった。
・継続して自分で確実に作業ができる技能が定着するように、毎学期ごとに裁縫の学習を行う必要がある。
・家庭科で学んだ知識を実際に家庭生活に生かしたり、これからの自分の成長について展望したりできる児童が少ない。

２　家庭科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・生活上の課題を解決するための 知識が十分とは言えない。	・食べるための調理の計画や調理の仕方・生活を豊かにする布を用いた制作の計画や製作について問題を見出して課題を設定、考えたことを表現するする力が十分とは言えない。	・実習や体験学習には互いに協力して取り組むが、家庭生活への関心を高め、生活に活かしていこうという意欲は十分ではない。
改善方針	・確実に知識・理解を定着させるために、既習の単元の知識・理解と関連付けながら学習を進める。	・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連付けて、家庭生活で活用できるように自分の生活に目を向けさせる。	・家庭で取り組む課題を与えて、家庭での協力を得ながらできる事が増えていることに気付かせ、生活で実践しようとする意欲をもたせるようにする。
改善策５年	・調理実習が一部しかできないため、ICTや動画等を活用しながら説明を細かく行う。また、調理道具など、安全で衛生的な取り扱い方なども学習での内容を関連付けながら覚えられるよう指導する。	・調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、判断し表現できるような発表し合う場を設ける。	・授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませる。
６年	・調理実習が一部しかできないため、ICTを活用し、動画や学習ソフトを使用して５年時の栄養素の学習と関連付け、食品の分類を再確認しながら学習を進める。また、昨年度の授業時数不足分も効率化を図りつつ補っていく。	・調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、発表することが出来るような場の設定と十分取り組むことのできる授業内容を取り入れる。	・授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませ、家庭での取り組みを共有する場を設ける。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校体育科）

１　体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・学習カードや掲示物、動画等を用いたことで、授業のポイントや自分に必要な課題を理解し、自分のめあてに向き合いながら運動する児童が増えた。
・友達と見合ったり、教え合ったり、学び合いをすることで、動きのポイントをより理解できるようになった児童が増えた。

〇課題

・学年が上がるごとに、技能差が顕著に表れている。
・運動量の確保について。１学期末に校庭ができたため改善されていく部分もあるが、１時間の授業の構成も工夫を継続していく必要がある。
・ポイントを意識したり、自分のめあてを考えたりしながら運動することが難しい児童がいる。
・新型ウイルスの感染防止のため、身体接触を伴う活動ができない。

２　体育科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・運動の技能差が大きい。 ・健康で安全な生活について学習した知識を、自分たちの生活に生かすことができない児童がいる。	・運動の動き方やポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶことができていない。	・勝敗を受け入れたり、お互いを認め合ったりする態度を身に付けさせる必要がある。
改善方針	・休み時間には積極的に外遊びや体育館遊びをするよう学校全体で取り組んでいく。また、スモールステップで指導していく。 ・自分たちの生活について振り返らせ、身近なことを用いて自分事として捉えさせる。	・友達と見合ったり、教師が声をかけたりして、ＩＣＴを活用したりして、よい動きや運動のポイントについて理解させる。	・望ましい態度の児童を称賛し、クラス全体でも共有していく。また、安全面については怪我につながる恐れがあるので、厳しく指導する。
改善策１年	・教師が説明する時間を極力減らして、運動量を確保する。腕支持や逆さ感覚など身体の感覚を身に付ける準備運動や活動を取り入れる。	・友達と動きを見合う場面を作り、よい動きを見付けられるようにする。 ・運動遊びにおいて、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を提示して選ばせる。	・児童がやってみたいと思えるような運動遊びを提示する。 ・安全に楽しく運動するためのルールを最初に提示し、ルールを守れている児童を褒める。
２年	・基礎となる動きは、毎時間確保することで、練習の機会が常に確保されるようにする。	・全体やグループ内で、友達の演技から学ぶ機会を設ける。	・学習後に「楽しかった、またやりたい」と思えるような授業展開の工夫をする。
３年	・学習カードや掲示物などを活用し、児童それぞれが自分に合っためあてをもてるようにするとともに技能向上のためのポイントを理解させる。 ・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。	・友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりすることができるようにする。	・スモールステップを踏んだ学習活動にする。苦手な児童が少し頑張ればできそうだという気持ちをもてるように授業を組み立てる。

４年	・学習カードや掲示物などを活用し、自分にあっためあてをもつとともに技能向上のためのポイントを理解させる。 ・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。	・友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりできるようにする。	・スモールステップで誰でも取り組みやすい運動から取り組ませる。
５年	・スモールステップで指導する。 ・完成形を見せて、自分の課題を明確にする。 ・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。	・教師→児童だけでなく、児童同士で声を掛けられるように、技を見る時の視点を与える。 ・学習カードを利用して、児童一人一人が技やゲームを振り返る時間をとる。	・オリエンテーションで、安全に関する指導を丁寧に行い、年間を通して徹底する。 ・スモールステップで指導する。
６年	・技能が高い児童を手本として見せたり、動画を見せたりすることで視覚的にイメージをもたせる。 ・主運動につながる感覚づくりの運動を多く取り入れる。 ・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。	・学習カードを活用し、運動で工夫したところ、次回頑張りたいことなどを振り返らせる。 ・場の設定を工夫し、運動のポイントを示したり学び合いをしたりすることで、課題を解決できるようにする。	・単元の最初にオリエンテーションを行い、めあて、学習の流れ、安全面の配慮についての指導を行う。見通しをもたせて学習させる。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校外国語）

１　外国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・身近で簡単な語（色、食べ物、数字、曜日、施設など）について理解している。

・日常会話を聞き、その内容を理解している。（誕生日、好きな教科、好きなスポーツ、できること・できないことなど）

〇課題

・アルファベットの読み書きが定着していない。

・道案内についての具体的な情報の聞き取りや理解が不十分。

２　外国語科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・アルファベットの読み方と書き方が定着していない。 ・言葉の聴き取りや理解が不十分。	・どのような表現を用いれば相手に伝わるか、考えながら話すことはできていない。	・英語が好きな児童と好きではない児童の差が開いている。
改善方針	・繰り返し復習することで、アルファベットを定着させる。 ・言葉を繰り返し聞くことで慣れさせる。	・様々な表現の方法や話型を提示しながら、どの表現を使うか児童に選択させる。	・必要性のある会話を用いて、どの児童にもコミュニケーションの楽しさを味わわせる。 ・ICT を活用し、自分の思いや考えを英語で表現させる。
改善策５年	・繰り返し発音することで、アルファベットを定着させる。 ・パソコンのローマ字打ち等を通じてアルファベットを定着させる。 ・ALT や ICT を活用し、発音や言語の特徴に慣れさせる。	・様々な表現方法を提示しながら、楽しく発音させる。	・必要性のある会話場面を設定し、どの児童にもコミュニケーションの楽しさを味わわせる。
６年	・繰り返し書くことで、アルファベットを定着させる。 ・ALT や ICT を活用し、単語の意味だけでなく、会話の意味や内容全体をつかませる。	・様々な表現の方法や話型を提示しながら、どの表現を使うか児童に考えさせ、発話や会話をする場面を増やす。	・必要性のある会話の内容を考えさせ、どの児童にもコミュニケーションの楽しさを味わわせる。